中学校２年　社会　調査結果及び考察

（１）設定通過率との比較　　※表中の数値は設問数

分類／設定通過率の	観点別			内容別		計
	思考・判断	技能・表現	知識・理解	地理的分野	歴史的分野	
＋10％ より高い	1	0	0	1	0	1
±10％ の範囲内	6	6	1	6	7	１３
－10％ より低い	1	1	4	3	3	6
計	8	7	5	１０	１０	２０

（２）考察

①　全体について

ア　移行期であることを考慮し、今年度は資料を活用して考える問題を多く出題した。そのためか、平均通過率は設定通過率の平均を約７ポイント下回った。

イ　設定通過率を20～30ポイント以上下回っている問題が５問あり、これらについては特に指導の改善が必要である。

②　成果

ア　“問いを発する子ども”の基盤づくりに資する問題がすべて設定通過率の「±10%の範囲内」である。

③　課題

ア　都道府県の位置と名称の理解が不十分である。

イ　歴史的分野の学習内容の確かな定着を図る必要がある。

ウ　複数の情報を組み合わせて適切に判断したり、資料を活用して考察する力が不足している。

（３）今後の指導

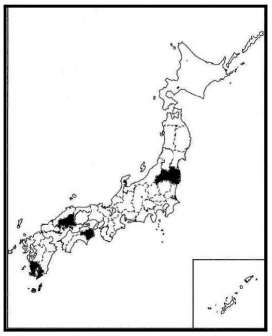
ア　地図や地球儀を活用し、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを正しく捉えさせながら日本の地域構成を大観させる学習の充実を図る。

○ポイント[(4を例として]

・日本の地域区分と名称を正しく理解させることで日本の地域構成を大観させる指導。

> 都道府県に関して正しく述べた文を，ア～エから一つ選んで記号を書きなさい。
> ア　海に面していない都道府県は７つである。
> イ　県名に「島」がつくのは、黒くぬりつぶした県だけである。
> ウ　日本海に面している本州の県のうち，県名と県庁所在地名がちがっている県は３つである。
> エ　九州地方と東北地方を比べると、それぞれの地方に含まれる県の数は東北地方の方が多い。

○具体例



①日本の地域区分について、例えば次のような区分があることを確認する。
- ・西日本と東日本
- ・七地方区分
- ・七地方をさらに分化した区分（東海、中央高地、北陸など）
- ・気候による区分
- ・商圏、都市圏など、機能的に結び付く範囲による区分
- ・行政区分（都道府県の名称と位置、都道府県庁所在地名）

②地域区分の学習の際には、生徒が小学校で学習した内容を活用しながら、自分の描いた略地図に位置と名称を書き込むなどの学習活動を取り入れ整理していく。

③都道府県の位置を学習する際には、日本が海洋国家であることから海に面している都道府県の海岸線の形状に注目させる。海岸線の形状に注意することによって、どの海に面している都道府県なのか、隣接する都道府県はどこか等を大まかに捉えやすくなることに気付かせる。

④歴史的分野や公民的分野においても適宜取り上げ、その知識の定着を図るよう指導を工夫する。

・日本の地域構成を大観するために、国土の位置、世界各地との時差、領域の特色や地域区分などの学習において地図や地球儀を積極的に活用する。

・具体例や次のような活用例を通し、地図や地球儀の上での日本の位置や地域構成について生徒が自分の頭の中でイメージできるように指導したい。

地図や地球儀の活用例

・同緯度、同経度の国々を調べ、日本の位置を捉える。

・隣接する大陸、海洋、近隣諸国との位置関係を把握する。

・地球儀を活用して、日本と西半球にある諸都市との時差を計算する。

・日本の領海や経済水域を調べ、日本が海洋国家であることを実感的に理解する。

・日本の領域や東経135度の経線に留意して、日本を構成する主な島々の形や位置関係を簡単な略地図に描く。